図書館通信

令和五年 六月号

☆小澤先生（数学科）のオススメ本　紹介☆

　都内で３件連続の予告連続殺人が起きた。１件目の現場に残された暗号は２件目の場所を示し、２件目の場所に残された暗号は３件目の場所を示し…。どうやら、４件目の現場となるのは高級ホテル「ホテル・コルテシア東京」になりそうだ。そうと分かれば指をくわえて殺人が起きるのを待っているわけにはいかない。捜査一課の新田浩介は、英語が話せる帰国子女だという理由から、ホテルマンになりきる潜入捜査を任命される。とはいえ、ホテルマンとしてはもちろん新人、ただでさえ曲者である新田に、ホテルクラークとして評価の高い山岸尚美が教育係としてつくことになる。そしていざ潜入捜査を始めると、ガウンを盗む客、ストーカー被害を受けて逃げ込んだ客、悪質なクレーマーなど妙に怪しい来客ばかり。いわば犯人捜しをしている訳だが、新田と山岸はお互いの経験や職業の違いから意見の対立が絶えない。いったい誰が次の実行犯なのか、そしてわざわざ暗号を残し続けた意味とは…。そんなことを考える日々に、ある特別な１日が始まる。

　振り返ってみると伏線大回収、そんな東野圭吾の作品を好んで読んでいます。なぜ気づけなかったのかと自問自答し、もう一度読み返せるので二度おいしいです。また、登場人物の感情の動きを客観視することで、現実でもありそうなことだな…と学びまで得られるお得な作品。ちなみに映画化もされています。木村拓哉（新田浩介）、長澤まさみ（山岸尚美）主演です。映画も含めて３度楽しめる？！ぜひ感想を直接お聞かせください。

☆ホテル特集！☆

　見ず知らずの客が集まる「ホテル」は物語の舞台としてうってつけです。　今回小澤先生がホテルを舞台にした傑作を紹介してくださったので、他のホテル小説もご紹介します！

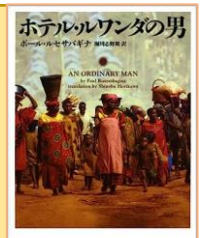
『むらさきのスカートの女』（今村夏子）

　芥川賞受賞作！　ホテルの掃除をする仕事につく「むらさき色のスカートをはいた女」をひたすら観察する話。かなり不気味なのですが、続きが気になって仕方がなくなる、一気読み必至小説です。　一番不気味なのは人間なんだなぁ…と、思う小説。

「バナナフィッシュに最適な日」（J・D・サリンジャー（『ナインストーリーズ』所収））

　世界で恐らく最も有名な短編。７０年以上前に発表された短編ながらいまだ多くの作品に影響を与え続けています。ホテルで電話をつなぐ印象的なシーンから、最後の衝撃的な展開まで一気に進みます。頭の中をぐちゃぐちゃにされたい人はぜひ。一度読んで損はない小説です。

『ホテル・ルワンダの男』（ポール・ルセサバギナ）



　最後にノンフィクション作品を一冊紹介します。今から３０年ほど前にアフリカの小国で起きた「ルワンダ虐殺」という事件を知っていますか？　わずか１００日間で国民の５人に１人が殺された狂騒、隣人に殺されるかもしれない恐怖の中、人々をホテルに匿った１人の男がいました。「ホテル・ルワンダ」という題名の映画も合わせてどうぞ。